



湯立神事 (ゆたてのしんじ)

いつもお世話になって
おります。

二鶴堂 大西 肇

(おおにしはじめ)です。

先月は毎年新見で行われる船川ハ幡宮
秋季大祭でした。本祭は雨で中止にな
りましたが、前夜祭に行われた「湯立神
事(ゆたてのしんじ)」に町内当番として
参加してきました。今回は神事のまわり
が見えるように灯りを調整する係。油を
薪につけ、灯りをつける。つけた灯りを
消さないように、薪をくべていくのです
が、これが難しい。「こんなに薪を入れ

とったら神事まで持たんよ。」「それじゃ
少なすぎじゃ。火が消えるぞ」近所の方
が近くに来てちょこちょこ指導してくれ
ます。そして夜7時。辺りが暗くなり、神
秘的な雰囲気の中、祈禱が始まり、神
事開始。気が付いたらたくさんの方が
見学に来られていました。こんなにたく
さんの方が来るのか、少し驚きました。
何をするのか知らずに親に言われるま
ま行きましたが、意外に責任が重くと思
う反面、その場に役割が持てることで少
し誇らしい気持ちになりました。雨が心
配されていたのでヒヤヒヤしていまし



たが、無事神事は終了。「肇君、来年は
湯立の方の当番じゃけ、頼むで。」昔柔
道を教えてもらった近所に住む先生に
そんなことを言われ、バーベキューあ
のように炭のにおいのかぶったまま帰
りました。来年も10月14日夜湯立神事。
ご興味ある方はぜひお越しください。

今月のお題 this month title

お祭りの思い出



祭りの思い出

いつもありがとうございます。
祭りと言えば、巻き寿司、鯖寿司、コンコン寿司。
さすが収穫の秋、米ばかり。
子供の頃、学校は午後から休みで、昼ご飯を食
べると、小遣いをもらい直ぐに神社へ。
お宮には、おもちゃ屋、わた菓子屋、まんじゅ
う屋などたくさんさんの露店が出ていました。お目
当ては、紙かん鉄砲と栗まんじゅう。握りしめ
た小遣いで買える、精一杯の贅沢でした。
先日、神輿当番のため30年ぶりに祭りに参加
しました。
ワッショイワッショイかついだ
神輿は、トラックに乗せるのが
やっとこさ。昔の人は元気じゃっ
たなあと一同。時代は変わりましたが、
田舎の大切な伝統行事
です。来年も、豊作であります
ように。

●営業所長 川口洋志



嬉しかった記憶が蘇る...

祭りと子どもの頃 学校は
午前中で終わり早く帰る
近くの神社では屋台があり、にぎやか、
軽トラにのせられたみこしは 地区を
まわり、ただ それを見ることが
記憶にない、というので 私の家は
居るというトビの街中から見ると言われ
る程の山の上、帰りにて
それと その日は 普段にか
ころうにありつる。
こればかりで とて嬉しい
懐かしい。

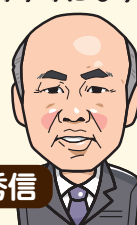
●営業主任 小川 茂



お祭りの思い出

かれこれ十数年前にお神輿を担ぐ当番
が回って来ました。
今では高齢化が進み、お神輿は軽トラに
乗せ地域を回っていますが、当時はまだ
担いで地域を回っていました。お神輿は
2基あり二手に分かれて回ってしまっ
たが、1基は早々とお宮に帰ったらしいの
ですがぼくらが担いだお神輿は行く先々
でお神酒をいただいて、フラフラになり
ながら夕方まで担いでいた
のを思い出します。
もうお祭りでお神輿を担ぐ
機会はないですが、若き日
のいい思い出でした。

●営業 川内秀信



祭りの思い出

それぞれの地域に伝わる、夏祭、秋祭があります。秋
祭はもちろん収穫に感謝したものです。
夏祭は、もともと祇園祭のように夏場に多く発生する
疫病で亡くなった人々を弔ったり、疫病そのものが怨
霊の仕業と思われ、それを鎮めるために祀ったもの
が多いです。しかし、医療の発達した現代では「よさ
こい」「うらじゃ」のように地域を元気にする祭りが夏
祭として定着して来たことが
感慨深い。

●営業 西田利宏



祭りといえば「だんじり」です

私の地元・大阪府柏原市では、祭りにだん
じりが出てきます。
昼間に地区内を曳いて回るのも楽しかった
ですが、一番はやはり夜です。
提灯をいくつも提げ明々と光るだんじりが
各地区から集まり、鐘や太鼓で囃しながら
競うように何度も駅前通りを行き交います。
今年の夏、10数年ぶりに見に行きましたが、
思い出以上の熱気に年甲斐もなく
興奮してしまいました!!

●営業 横内 明

